



整備状況

2023年度末時点で、全国の96.1%の自治体で1人1台端末が整備されている。更新費用も措置できている。

利用頻度

小中学校では約50%が「ほぼ毎日」端末を活用している。

家庭での利用

家庭での利用も進み、学習の幅が広がっている。

すでに学校には、デジタル学習基盤がある

Made with Gamma



教師の声：ポジティブなとらえ

1 効率的な学習

デジタルツールの使用で学習が効率的になる。

2 調べ学習の向上

調べ学習やプレゼンテーションの作成がスムーズになる。

3 個別学習の促進

子供本位のペースで学習を進められるようになる。

4 協働学習の充実

オンラインツールを使った共同作業がしやすくなる。

Made with Gamma



教師の声：ネガティブなとらえ



調べると答えが出る

検索するだけで、解答が得られる。単純な知識を得られるだけでなく、それらしい文章に仕上げてしまう。その場しのぎの学習に陥ってしまいがちになる。



ネット接続の不安定さと操作習熟の時間

ネットワークへの接続が不安定で、時間的なロスとストレスがある。そもそも、端末やアプリの操作に慣れるのに時間がかかる。



集中力の低下

学習とは無関係な動画視聴やSNSやゲームなどの誘惑が増え、生徒の集中力が低下する。



健康面の懸念

長時間の画面使用による目の疲れや姿勢の悪化が心配である。

Made with Gamma



学習指導要領の改訂の方向性

1 基盤となる資質・能力の明確化

言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力などの学習の基盤となる資質・能力の重複部分を整理し、各教科等で共通する点を明確にする。

1

2 学習評価の検討

現状の3観点による観点別評価を維持しつつ、「主体的に学習に取り組む態度」の観点を子供がより主体性を発揮できるように検討する。

2

3

デジタル学習基盤との関係整理

GIGAスクール構想などによって実現しつつあるデジタル学習基盤との関係を含めて、資質・能力の整理・具体化を図る。

予定：次期学習指導要領の公布は、令和9（2027）年3月か？

Made with Gamma

学習と評価の一体化

1

学習ペースの最適化・継続的評価

生徒一人ひとりの理解度に合わせて、AIが学習速度を調整します。定期テストをはじめ、日々の学習活動を含めて、学習のまとりごとに総合的にAIが分析し評価します。

2

スキルベース評価で、興味に基づいた内容

知識だけでなく、問題解決力や創造性などのスキルも重視して評価し、生徒の関心に応じて、AIが学習材料をカスタマイズします。

3

リアルタイムフィードバック

AIが即座に学習の進捗を分析し、AIによるリアルタイムフィードバックで、生徒を常に把握します。適切なアドバイスを提供します。

Made with Gamma

- 入試問題や一部の資格試験であれば、生成AIで、ほぼ合格レベルに達する
- ネットを調べればわかることは、ネットで済まず
- 「何もかも覚えさせることは必要ではない」
- 身に付けるべきことが、知識・技能から資質・能力（知識・技能を含む3つの柱）に変わっている
- 生成AIで済むようなことを授業で行ってないか？
- 教職は「将来、なくなってしまう職業」になるのか？

教師の役割の進化（理科に限らない）

ファシリテーター

教師は生徒の対話や協働学習を促進する役割を担う。

メンター

個々の生徒の成長をサポートし、キャリア指導にも注力する。

AI活用のエキスパート

AIツールを効果的に活用し、授業の質を高める。

理科授業の特殊性

- 探究的な学び
- 自然の事物・現象
- 観察・実験

理科授業での活用例

データ分析

観察・実験で得られたデータの記録や分析をし、共有します。

共同編集

グループワークで共同編集ツールを活用し、発表でも使います。

シミュレーション

指導内容に特化したシミュレーションを活用します。